

都城市立東小学校の学力向上への取組

1 本校の学力調査結果及び意識調査結果から見た課題

(1) 学力調査結果からの課題

国語においては、県平均と比べ、「漢字の読みや書き」が下回っており、日常的な反復練習を継続する必要がある。また、主語と述語やローマ字に関する出題においても平均を下回っており、言語事項の確実な指導と定着が求められる。

社会においては、「調査方法の判断」や「博物館の利用方法」に関する出題で県平均を下回っており、社会科の調査や見学の際、十分に時間をかけて丁寧に目的や方法を話し合うことが求められる。

算数においては、「3位数÷2位数」や「3位数÷1位数」の出題において県平均を下回っている。除法における表現・処理の力を確実に身に付けさせる必要がある。

理科においては、「水の対流」や「水の沸騰」、「金属の棒のあたたまり方」に関する出題で県平均を下回っており、ものあたたまり方を取り扱う単元において、様々なものあたたまり方を具体的にとらえさせる指導方法の工夫・改善が求められる。

(2) 意識調査結果からの課題

「学びの基礎力」「生きる力」とともに県平均を上回る結果だが、毎日時間を決めて学習する習慣作りや、テストで間違えた原因を考えたり自信のない問題に繰り返し挑戦したりする態度を育てる必要がある。

2 学力向上に向けた課題解決への具体的な取組

(1) 学力向上に向けた経営方針（平成18年度学校経営案より）

- ① 「妻ヶ丘中学校区ブロック会議」及び「学力向上改善計画」等において到達目標を設定し、状況把握と情報公開を行う。
- ② 全ての職員の指導力向上を目指して、授業研究を核にした職員研修を充実させる。
- ③ 保護者と担任との二者面談を行い、学力向上に向けた家庭との連携を深める。
- ④ 「朝の学習」を効果的に実施し、教師の指導のもとでの繰り返し学習を充実させる。
- ⑤ 「朝の読書」や「読み聞かせ」を定期的に行い、豊かな言語感覚を身に付けさせる。
- ⑥ 火曜日の放課後の時間帯を「教材研究の時間」とし、毎時間の授業に必要な事前準備の時間を確保する。

(2) 教育課程内の取組

① 主題研究としての取組

「わかる喜び・読む楽しさを味わい、確かな国語力を身に付けた児童の育成」の研究主題のもと、国語科学習指導方法の工夫改善と言語環境の整備に取り組んでいる。

ア 学習指導班の活動例…「単元評価表」「自己評価表」の活用

「単元評価表」は、各単元の目標分析に基づいて定めた観点毎の評価項目について、それぞれの児童がどのような実現状況にあるかを把握するためのものである。一時間の授業で評価する項目を絞り込み、一単元が終了する時点で全ての項目をもれなく評価することとなる。指導と評価の一体化の観点に立ち、単元途中での児童へのフィードバックにも生かされている。

「自己評価表」は、毎時間の学習後、児童自身に書き込ませる評価表である。学習に対する意欲や関心等の項目の他、本時の学習問題に対する理解度を自己評価する項目を設けることもある。評価表の形式としては、学習計画表を兼ねて単元の導入段階で配布される一単元全体の評価表形式や、1時間毎のワークシートを兼ねた形式等がある。

イ 言語環境整備班の活動例…「こくちゃんコーナー」の設置



左の写真は、高学年の廊下に掲示された「こくちゃんコーナー」である。共通語と方言との語感の違いを感じ取らせる内容となっている。児童は、この掲示物の前で足を止め、紹介されている各地の方言を声に出したり感想を語り合ったりするなど、関心をもって見ていた。コーナーの内容は、適時変更していくようになっている。

(3) 教育課程外の取組

① 読み聞かせ活動

毎水曜日の朝、職員朝会を行う時間帯を活用して、保護者の読み聞かせボランティアグループによる読み聞かせ活動を行っている。読み聞かせが行われていない学級は、読書タイムとして読書活動を行っている。15分間集中して読書続けることにより、豊かな言語感覚を身に付けた児童の育成を目指している。

② 暗唱活動

「雨ニモマケズ」「寿限無」「平家物語」などの文章が印刷されたプリントを児童に配付し、暗唱に挑戦させている。校長が聞き役となり、確実に暗唱できたと認められた場合には、認定証を配付することとなっている。全児童が暗唱に合格する学級が出るなど、たいへん意欲的な取組が見られる。

(4) 保護者・家庭・地域との連携

① 家庭学習の手引き



家庭学習の目安となる時間（低学年 30分、中学年 30～60分、高学年 60分以上）や学年の発達段階に応じた学習方法を示した「家庭学習の手引き」を作成し、保護者の理解と協力を得ながら家庭学習の習慣作りを進めている。また、各学年の学習内容に応じた学習課題を課すことにより、学習事項の定着を図っている。

② フリー参観・二者面談

6月の授業参観日を月曜日から金曜日までの5日間と設定し、2校時から5校時または6校時までのどの時間帯でも授業を参観可能とする「フリー参観」を実施すると共に、放課後の時間帯を活用して希望する保護者と担任との「二者面談」を実施した。様々な教科・領域の授業を保護者が参観することで学校での児童の様子を把握することが可能になると共に、学習面や生活面について、より具体的な話合いが可能になることで、児童理解を深めることができた。

3 成果と課題

- 成果 ○ 朝の読み聞かせ活動や、暗唱活動、国語科指導方法の工夫・改善等により、日本語に対する児童の興味関心が高まってきているとともに、自らの意思をはっきりと伝えようとする姿が見られるようになった。
- 朝の学習時間の効果的な活用や、算数の時間の充実により、算数CRT検査において全ての学年が全国平均を上回る結果となった。
- 課題 ○ 本校及び中学校区ブロックの到達目標を実現するため、指導と評価の在り方をより一層具体的にすることが必要である。